

## ご挨拶

(一社) 東北地質調査業協会 理事長 **奥山 清春**



日頃より当協会の事業運営に対しまして、格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

毎年降る雪ですが、近年は雪の降り方も極端な振れ幅で日常生活に影響が出るような傾向が一段と強くなっている気がいたします。各県の皆様におかれましても十分に注意し、穏やかな一年を過ごされますようご祈念いたします。

このような気象状況においては、大きな災害が毎年日本各地で頻発化し、昨年も豪雨災害等による多くの甚大な被害が発生しました。東北でも7月から9月にかけて豪雨による災害が発生し、災害対応された企業におきましては、大変ご苦勞様でした。当協会も災害協定に基づき積極的に対応させていただき、発注機関と綿密に連携を取りながら、安全・安心につながる地域づくりに一層取り組んでまいります。

さて新型コロナウイルスは3年以上にわたり社会生活や経済活動に世界や日本でも大きな影響を受けました。感染拡大の当初は様々な行事や催しが延期、中止という状況になり、私ども協会でも5月に行われる定時総会や、10月に行われる臨時総会なども中止となりました。ようやく昨年から社会経済活動と感染拡大防止の両立ということで、当協会も3年ぶりに対面での定時総会や臨時総会など実施することができました。今後も感染拡大防止をしながら、本来の協会活動を取り戻せるよう会員の皆様と一緒に活動してまいります。

東北地質調査業協会では昨年も関係各所との綿密な連携をしながら、東北地方整備局との意見交換会、宮城県土木部との意見交換会、地質調査技士などの検定試験、技術講習会などへの講師派遣、仙台工業高校への出前講座も2回実施し、技術者セミナーも関係各所のご協力のもと実施いたしました。また1月には3年

.....

ぶりとなる新春講演会を仙台育英学園の野球部監督須江航様を講師に迎え実施いたしました。大変貴重な講演をしていただき幸先の良い一年となったのではないのでしょうか。

今年も国内、世界経済とも非常に厳しく、いくつもの課題もある一年となることが予想されております。昨年からの様々な分野における物価高、働き方改革の一層の推進や賃上げ、若手技術者の雇用や技術の伝承、BIM/CIMなどの積極的な活用、そして引き続き防災・減災、国土強靱化などへの対応、今後も改正品確法のもと、生産性の向上、工期の平準化などや、地盤情報の把握不足による地

質リスクに対する対応など様々なことが非常に重要となっております。このような社会情勢に敏感になり、しっかり把握したうえで、業界を通じて、協会員一丸となってより一層前進するよう取り組んでまいりたいと思います。

新春講演会での須江監督は、成功より失敗や敗戦が物事を進化させるには非常に重要であると。我々協会も新型コロナに苦しんだ3年間を無駄にすることなく、会員皆様にとって良い年となるよう祈念いたしましてご挨拶に代えさせていただきます。本年もよろしく願い申し上げます。